

不眠症が心臓血管イベントの再発に関連

不眠症は冠動脈性心疾患の患者で罹患率が高いが、不眠症が主要な心臓血管イベント再発のリスクになるのかは不明である。本研究では、ノルウェーの冠動脈性心疾患の患者を対象に、不眠症と心臓血管イベント再発との関係について前向き研究を実施し検討した。

急性心筋梗塞および/または冠動脈血行再建術施行後 2-36 カ月（平均 16 カ月）の患者 1,082 例を対象とした。試験開始時の平均年齢は 62 歳、女性は 21%、不眠症の診断基準を満たしたのは 45%であった。平均 4.2 年の追跡期間中に 346 件の主要心臓血管イベント（心臓血管死、心筋梗塞による入院、冠動脈血行再建術、心不全）が 225 例の患者で発生した。年齢や性別、過去の冠動脈イベントで調整後、不眠症のない患者と比べた不眠症のある患者の主要心臓血管イベント再発の相対リスクは 1.62

（ $p < 0.001$ ）であった。さらに不安やうつ症状で追加調整後では、同リスクは 1.41（ $p = 0.023$ ）となった。主要心臓血管イベント再発の寄与割合を算出したところ、不眠症は 16%となり、喫煙（27%）、運動不足（21%）に次いで 3 番目に高かった。

したがって、不眠症は心臓血管イベントの再発リスクの上昇と関連することが示唆された。冠動脈性心疾患の患者では、不眠症を診断し、適切に管理することが重要である。

出典：SLEEP Advances.2022 April 7 published online first.